

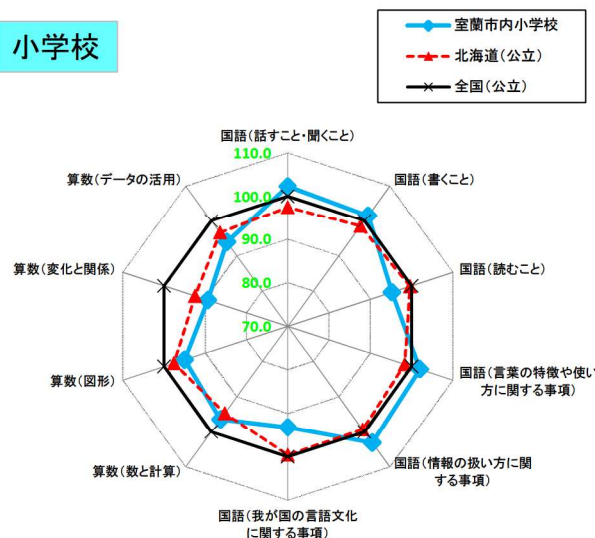
■室蘭市内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：489人）（中学校数：7校、生徒数：433人）

【教科全体の状況】

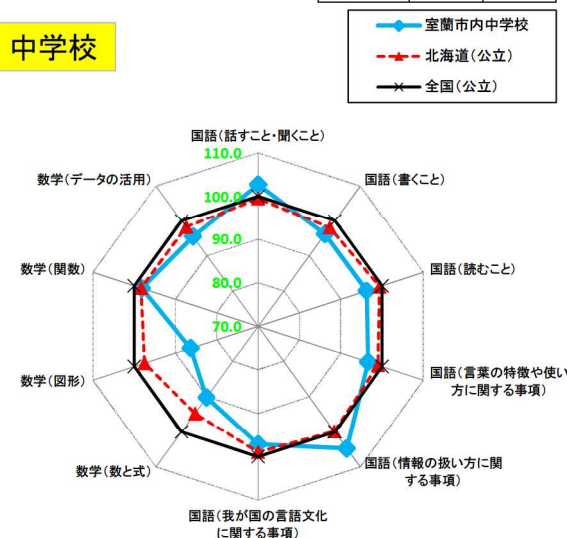
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	57
算数・数学	60	49

小学校

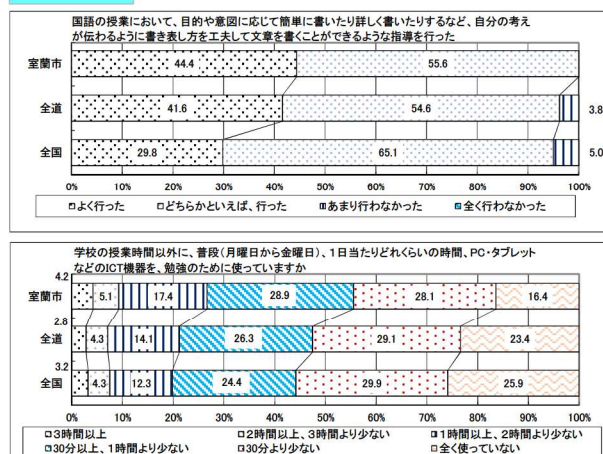


中学校

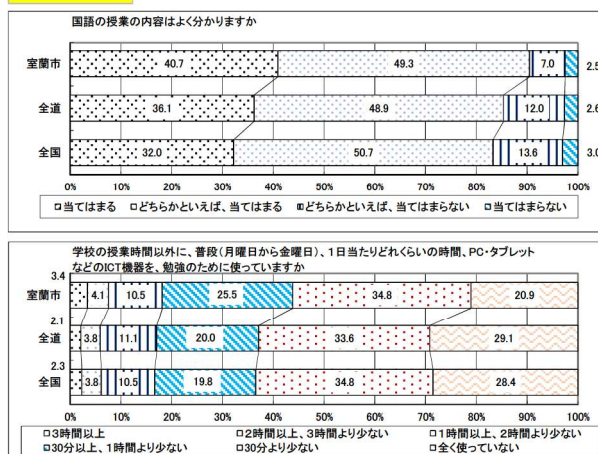


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、義務教育9年間を見通した学習指導の確立を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を推進したことにより、国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国と同じであり、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱い方にに関する事項」で全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、1人1台端末の持ち帰りによる家庭学習の充実に取り組んだことにより、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市全体で、義務教育9年間を見通した学習指導の確立を検討し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善を推進したことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、1人1台端末の持ち帰りによる家庭学習の充実に取り組んだことにより、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【室蘭市の学力向上策】

- ◎ 「学力向上プランシート」に基づく検証改善サイクルの確立に向けた各学校の組織的な取組の推進
- ◎ 小中連携教育の充実による教員の指導力向上や学力向上に向けた取組の実施
- ◎ ICT端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

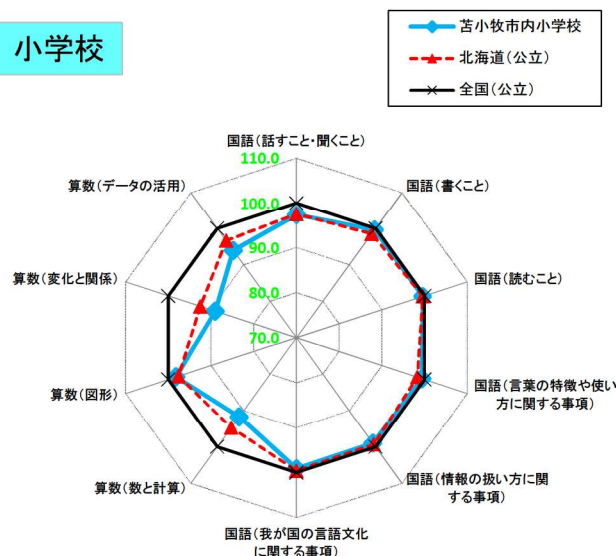
■ 苫小牧市内の状況及び学力向上策 （小学校数:23校、児童数:1356人）（中学校数:15校、生徒数:1270人）

【教科全体の状況】

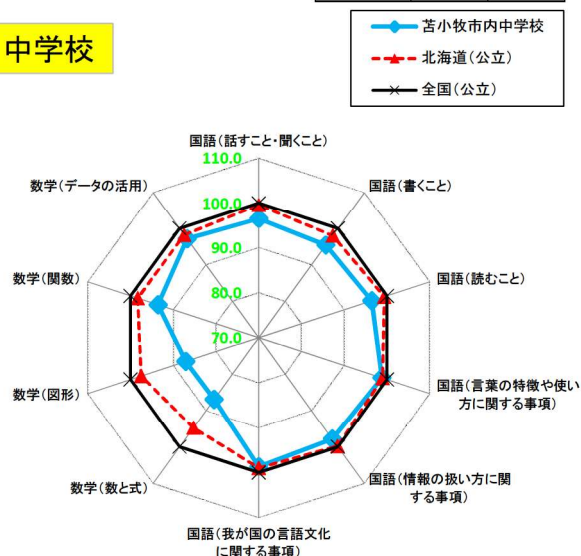
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	56
算数・数学	59	48

小学校

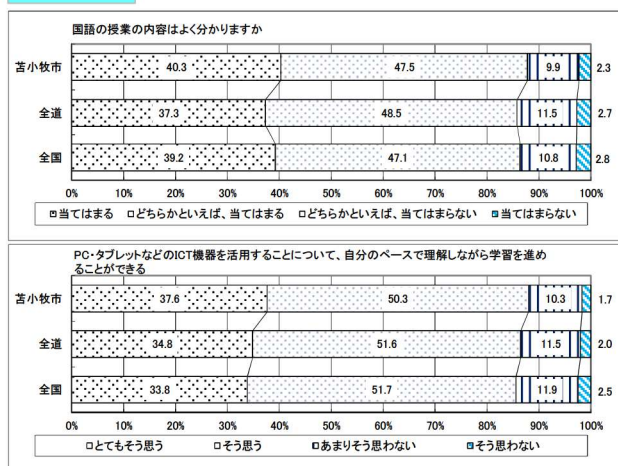


中学校

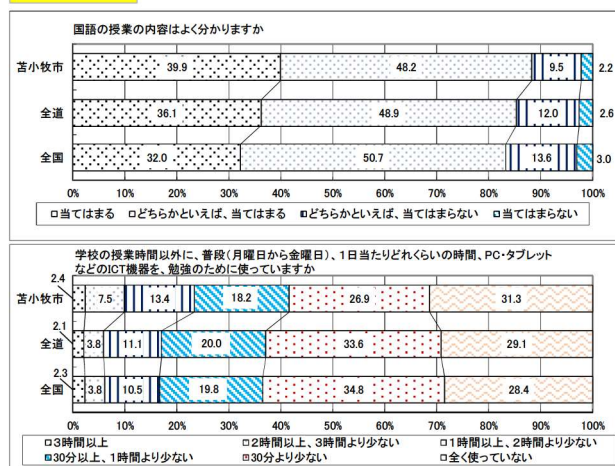


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、児童が主体的に学ぶために「焦点化、イメージ化、視覚化」の共通取組事項を単元や一単位時間の授業の中で適切に位置付けた授業改善を推進したことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「ICT活用Leaf」や情報共有動画サイト「Tomatube」を作成し、ICTに係る教育効果の高い情報や活用法を市全体で共有したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市全体で、生徒が主体的に学ぶために「焦点化、イメージ化、視覚化」の共通取組事項を単元や一単位時間の授業の中で適切に位置付けた授業改善を推進したことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「ICT活用Leaf」や情報共有動画サイト「Tomatube」を作成し、ICTに係る教育効果の高い情報や活用法を市全体で共有したことにより、学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【苫小牧市の学力向上策】

- ◎ 苫小牧型小中連携教育「苫小牧ALL-9」による小・中学校間の一貫・連携した指導の推進
- ◎ ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ◎ 4つの共通取組場面「見通す・決定する・協働する・振り返る」を位置づけた授業改善の推進

【Webページ】



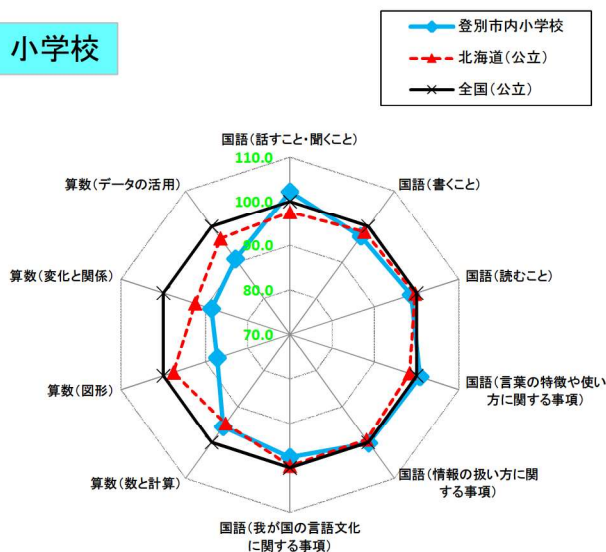
■登別市内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:309人）（中学校数:5校、生徒数:231人）

【教科全体の状況】

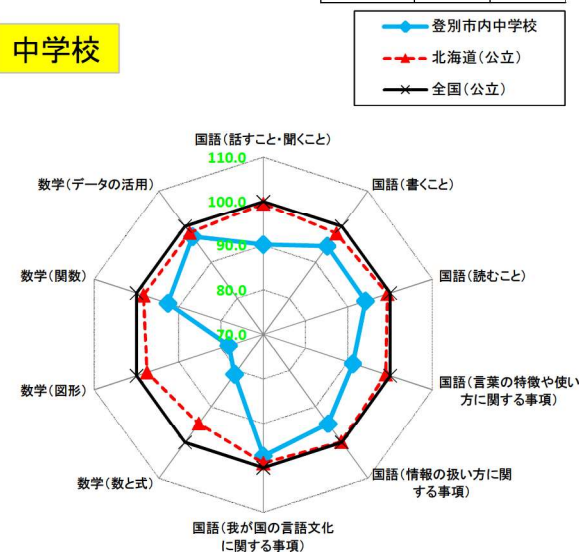
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	54
算数・数学	58	46

小学校

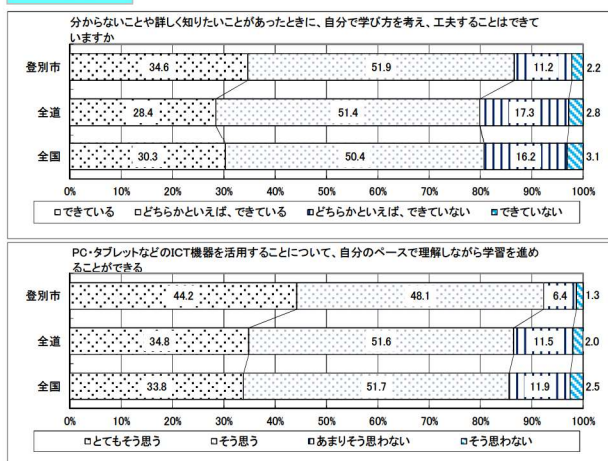


中学校

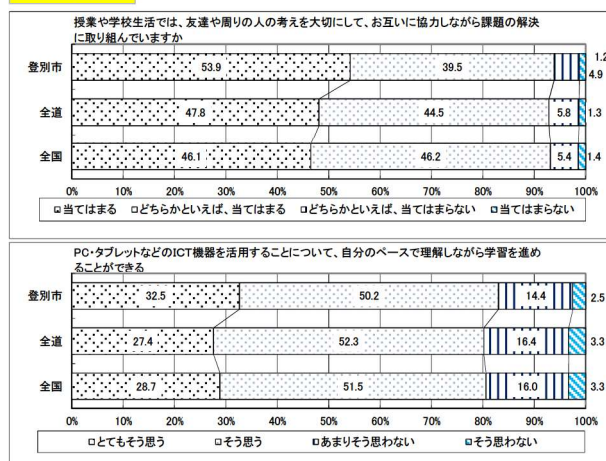


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、子ども一人一人の特性や学習進度、興味・関心等を踏まえた指導方法や指導体制の工夫・改善を進めたことにより、分らないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「登別市立小中学校ICT活用実践事例集」を作成し、ICTの活用法を市全体で共有したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市全体で、子ども同士や多様な他者との対話を通した学び合い活動を推進したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「登別市立小中学校ICT活用実践事例集」を作成し、ICTの活用法を市全体で共有したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【登別市の学力向上策】

- ◎ 各学校の結果分析による改善策を集約し、これに基づいた指導助言の実施
- ◎ 教員の指導力向上に向けた登別市教育課程課題検討委員会等と連携した取組の充実
- ◎ 「登別市小中一貫教育基本方針」に基づいた小・中学校9年間を見通した学習指導の充実
- ◎ 登別市教育委員会デジタルフェローと連携したICT活用研修の実施による指導力向上

【Webページ】



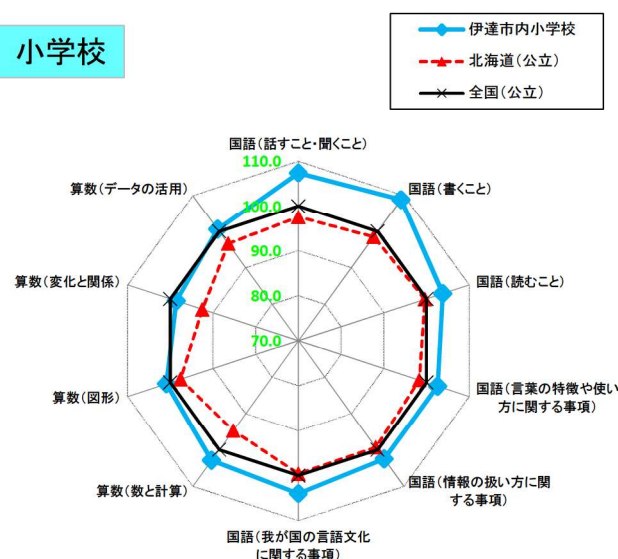
■伊達市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:192人）（中学校数:3校、生徒数:223人）

【教科全体の状況】

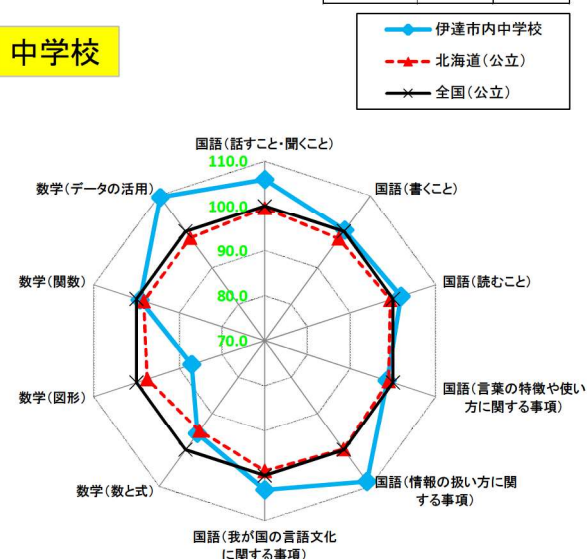
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	71	60
算数・数学	64	52

小学校

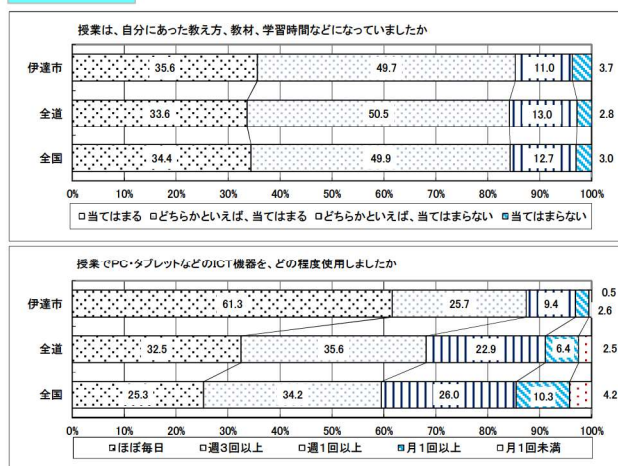


中学校

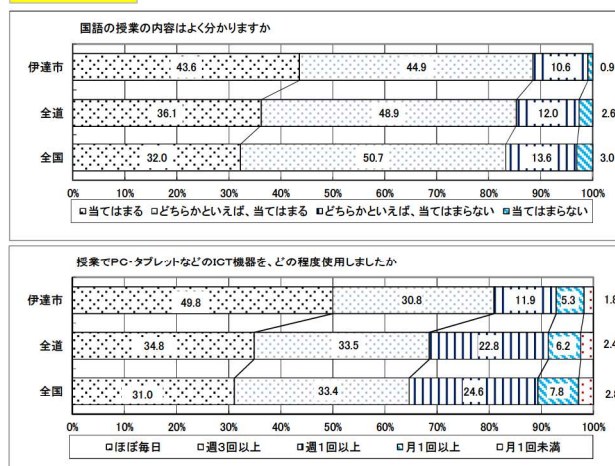


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市全体で、基礎・基本の徹底を目指した学力向上の取組を推進し、授業改善に取り組んだことにより、授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間となっていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語・算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、「教育DX」を基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に発展させた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組んだことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市全体で、基礎・基本の徹底を目指した学力向上の取組を推進し、授業改善に取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、「教育DX」を基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に発展させた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組んだことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【伊達市の学力向上策】

- ◎ 「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善策の推進
- ◎ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現するための授業改善の推進
- ◎ ICT機器及びデジタル教材を活用した授業改善の推進

【Webページ】



（後日掲載予定）

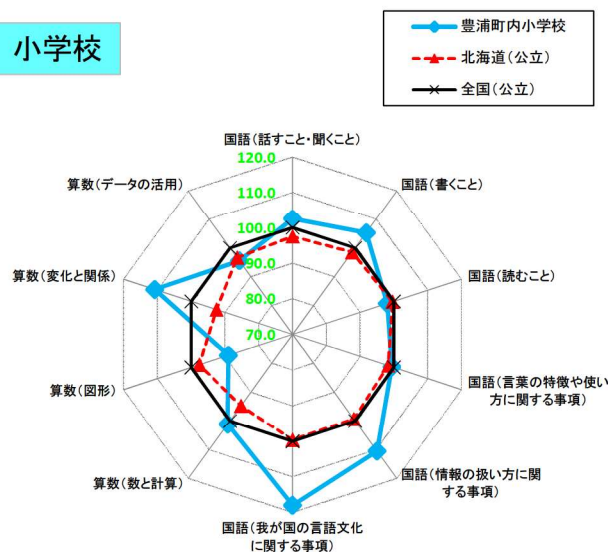
■豊浦町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:25人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

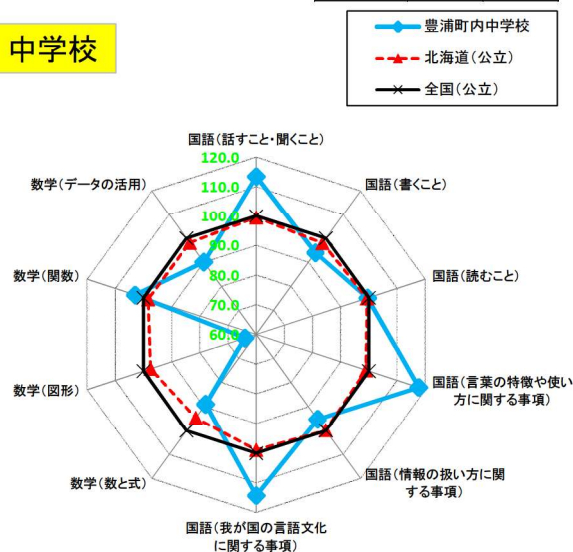
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	62
算数・数学	63	47

小学校

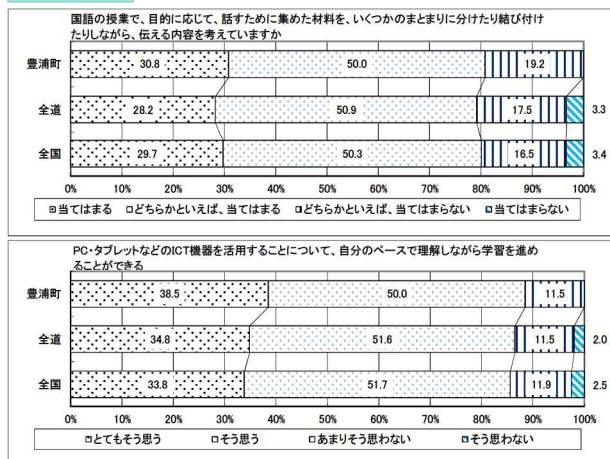


中学校

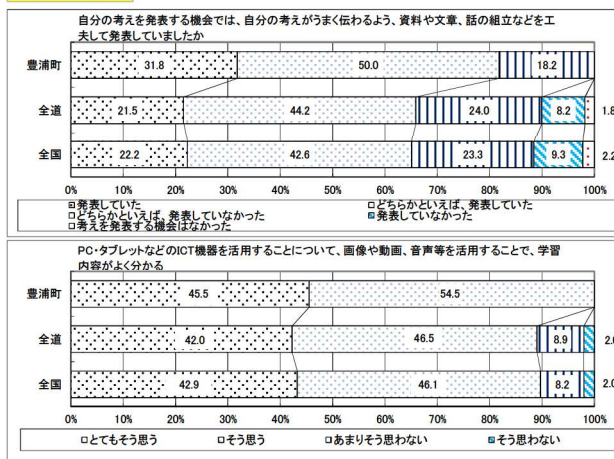


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自己の考えを広げる授業づくりを推進したことにより、国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレットやデジタル教科書などのICT機器を児童が家庭に持ち帰り、家庭学習の質を向上させたり学校での学習とつながりをもたせたりする取組を行ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自己の考えを広げる授業づくりを推進したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、タブレットやデジタル教科書などのICT機器を授業の中で効果的に活用できる場面を設定する取組を行ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【豊浦町の学力向上策】

- ◎ 教育委員会主催の研修会等による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 社会教育と連携した地域の人材や教材の活用による「ふるさと学習」の推進
- ◎ 3小学校による交流学习や小中ジョイント（共同）授業、出前授業の実施及びICT機器を効果的に活用した授業実践の共有

【Webページ】



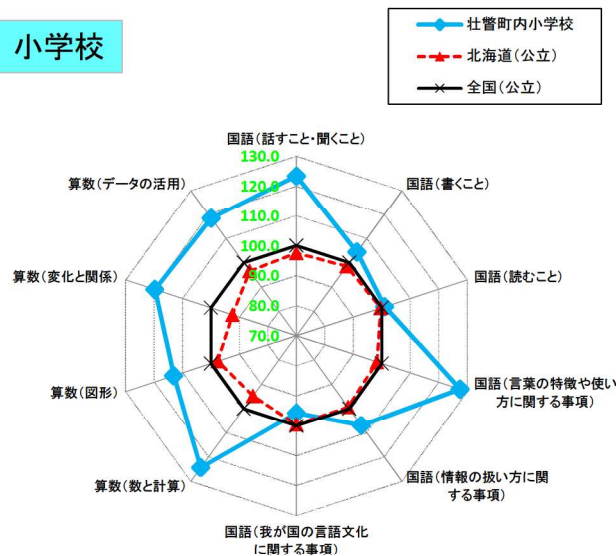
■ 壮瞥町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：14人）（中学校数：1校、生徒数：10人）

【教科全体の状況】

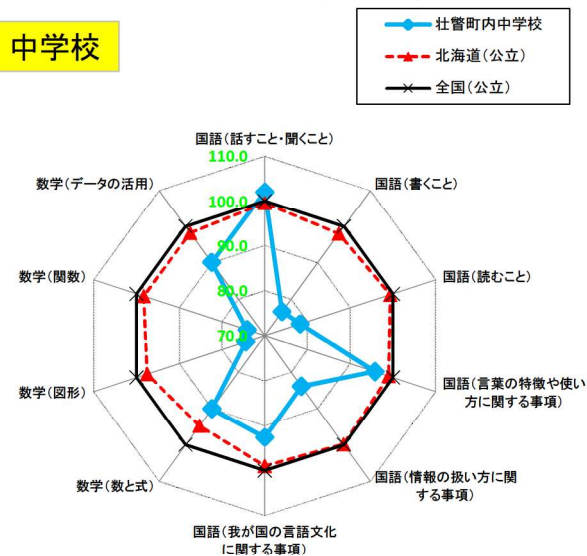
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	51
算数・数学	75	44

小学校

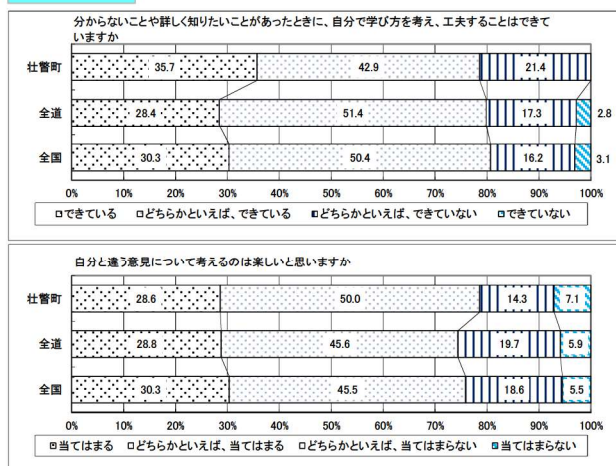


中学校

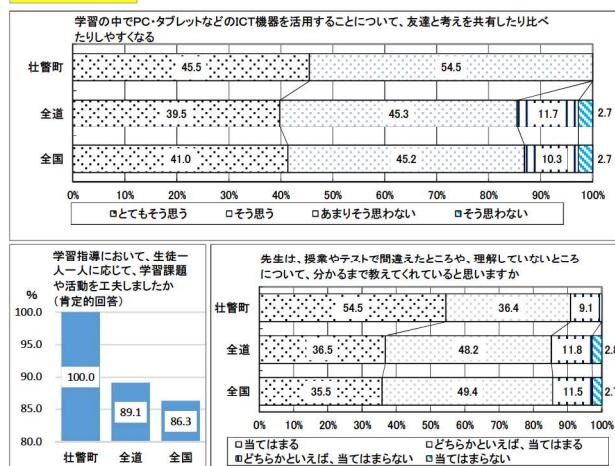


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、児童が自分のペースで、自分で学ぶことのできる個別最適な学びを推進したことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語及び算数の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、課題解決型の学習に取り組み、自分で調べて発表し、議論する中で学びを深める協働的な学びを推進したことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、GIGAスクール構想によって配備された1人1台端末を十分に活用する取組を推進したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学校の学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【壮瞥町の学力向上策】

- ◎ 各学校における客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組の推進
- ◎ 小中一貫教育推進委員会における9年間を見通した目標や教育課程の編成による小中連携の充実
- ◎ 1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善の推進

【Webページ】



（後日掲載予定）

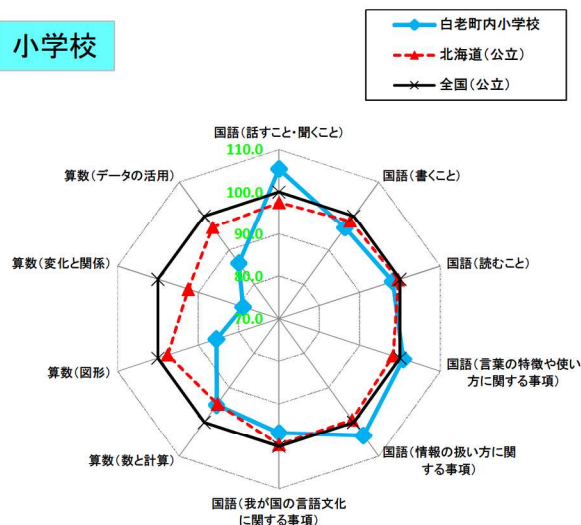
■白老町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:72人）（中学校数:2校、生徒数:86人）

【教科全体の状況】

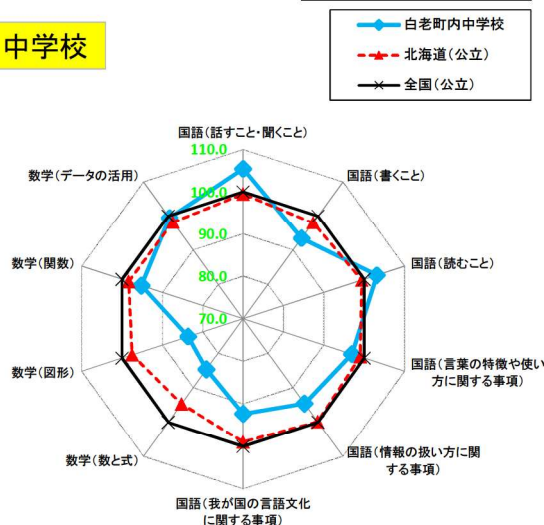
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	57
算数・数学	56	48

小学校

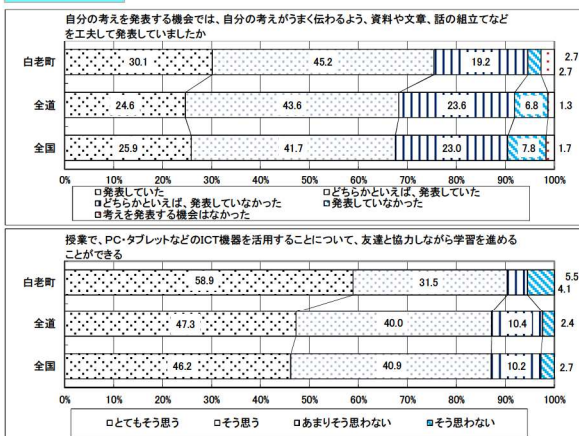


中学校

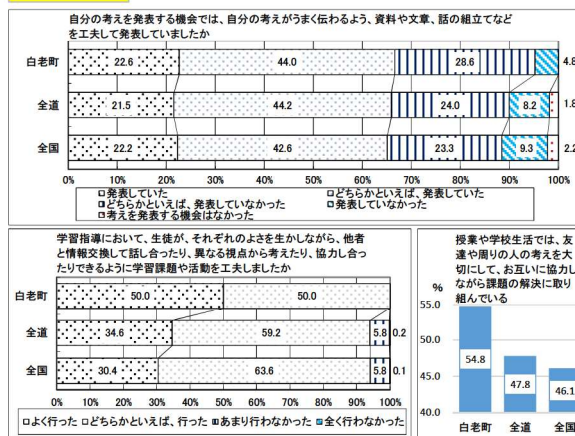


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
「白老町スタンダード（白老の底力）」を策定するなど、町全体で児童が主体的に関わる学習活動の定着を推進したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「情報の扱いに関する事項」で全国及び全道を上回ったと考えられる。
町全体でICT機器の効果的な活用を推進したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
「白老町スタンダード（白老の底力）」を策定するなど、町全体で生徒が主体的に関わる学習活動の定着を推進したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白老町の学力向上策】

- ◎ 「白老町スタンダード（白老の底力）」を基軸にした確かな学力の定着を図る取組の推進
- ◎ 小規模校における遠隔授業の実施及びICT端末を活用した取組の推進
- ◎ 義務教育9年間の切れ目のない学びの実現による小中一貫教育の充実及び小中連携教育の推進

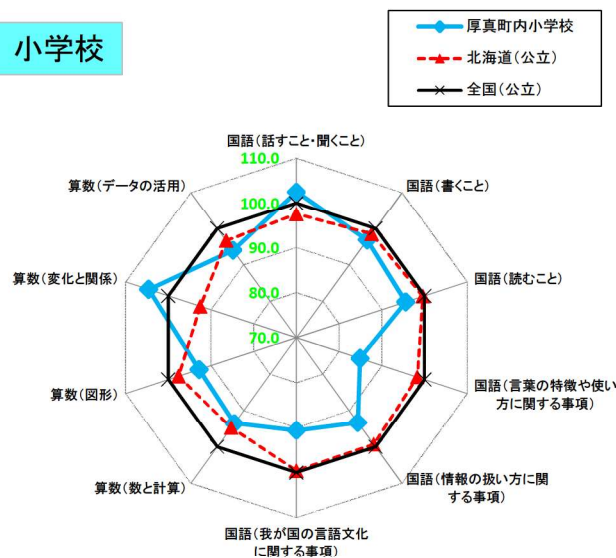
■厚真町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:37人）（中学校数:2校、生徒数:30人）

【教科全体の状況】

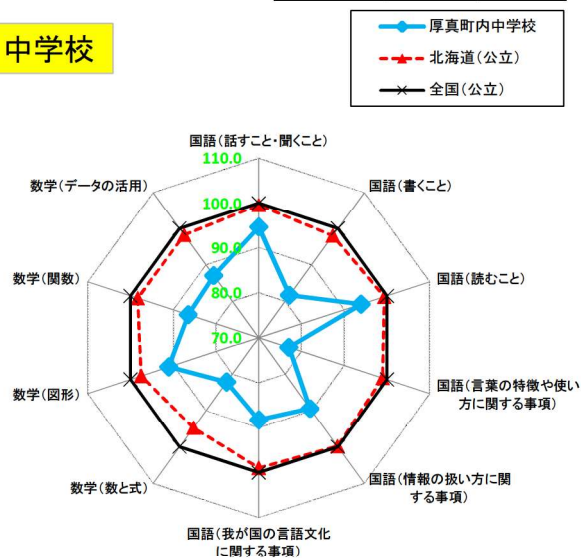
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	51
算数・数学	60	45

小学校

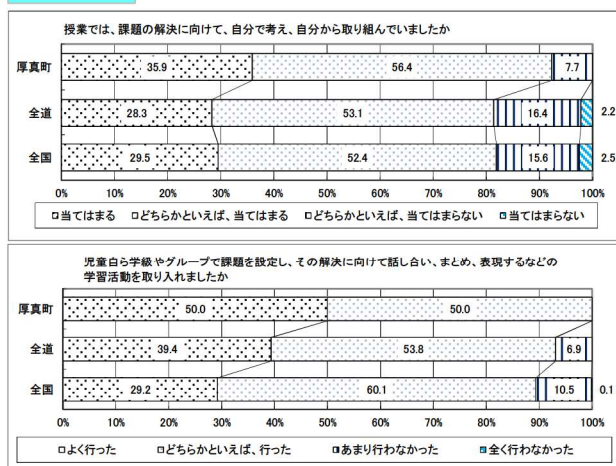


中学校

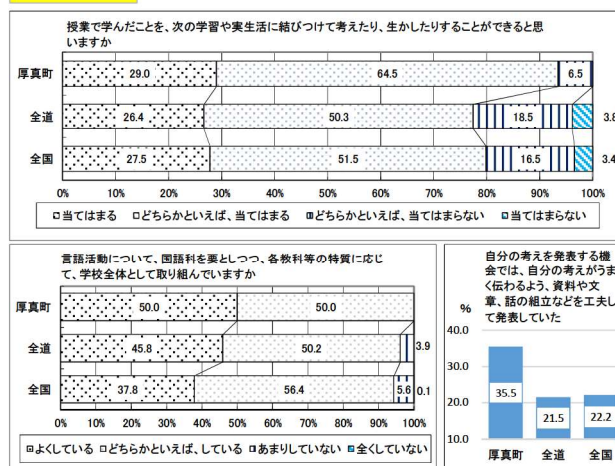


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、小中一貫教育の取組を軸に、授業における「あつまスタイル」の継続とともに探究的な学びの実践と検証を行ったことにより、授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、算数の「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、小中一貫教育の取組を軸に、授業における「あつまスタイル」の継続とともに探究的な学びの実践と検証を行ったことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【厚真町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学習課題解決に向けた学校改善プランの実践と検証
- ◎ 「厚真の未来を語る子」の育成に向けた小中一貫教育の取組の推進
- ◎ 厚真町教育研究所を中心とした個別最適な学びの推進とICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

【Webページ】



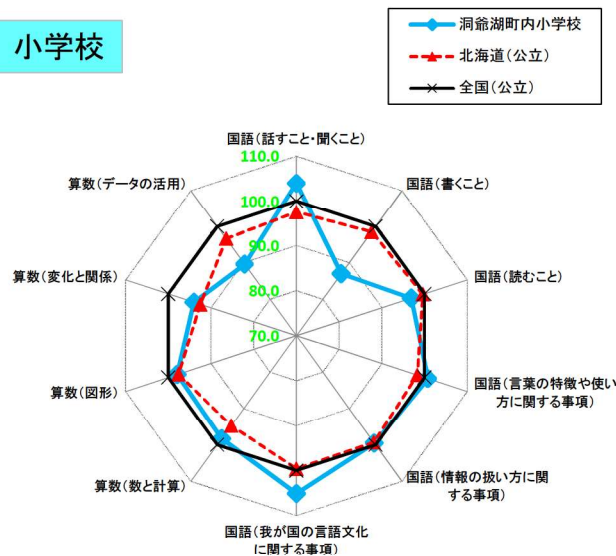
■洞爺湖町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:37人）（中学校数:2校、生徒数:37人）

【教科全体の状況】

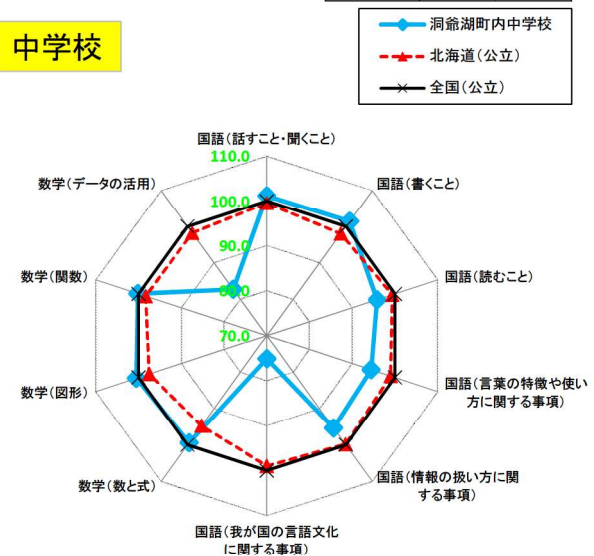
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	55
算数・数学	61	50

小学校

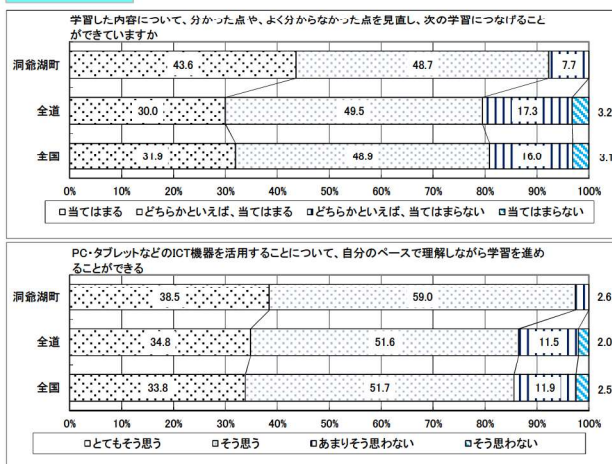


中学校

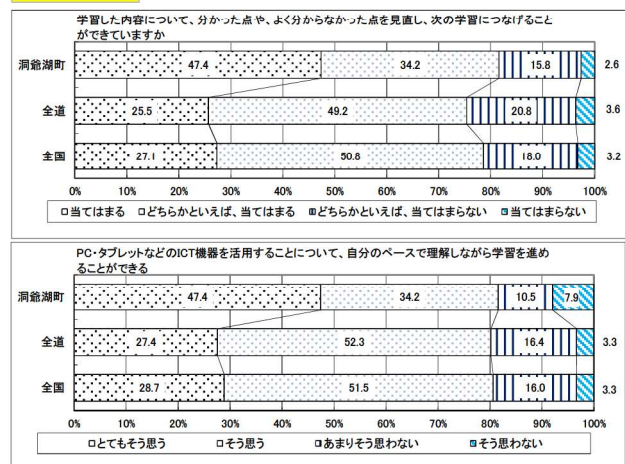


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、授業での振り返りや家庭学習の充実に向けた取組を推進したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項で全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT端末を効果的に活用した授業づくりやAIDリルを活用した学習習慣の定着の取組を行ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、授業での振り返りや家庭学習の充実に向けた取組を推進したことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域、数学の2領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICT端末を効果的に活用した授業づくりやAIDリルを活用した学習習慣の定着の取組を行ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【洞爺湖町の学力向上策】

- ◎ 個別最適な学びと協働的な学びを具現化する授業構築に向けた、町教研主体の研修活動と校内研修を連動させた取組の推進
- ◎ ICT端末を効果的に活用した授業づくりや日常的なICT端末の持ち帰りやAIDリルを活用した学習習慣定着の取組の推進
- ◎ 各家庭におけるWi-Fi環境の整備の推進
- ◎ 地域未来塾等を通じた学校外における学習支援事業などの取組の推進

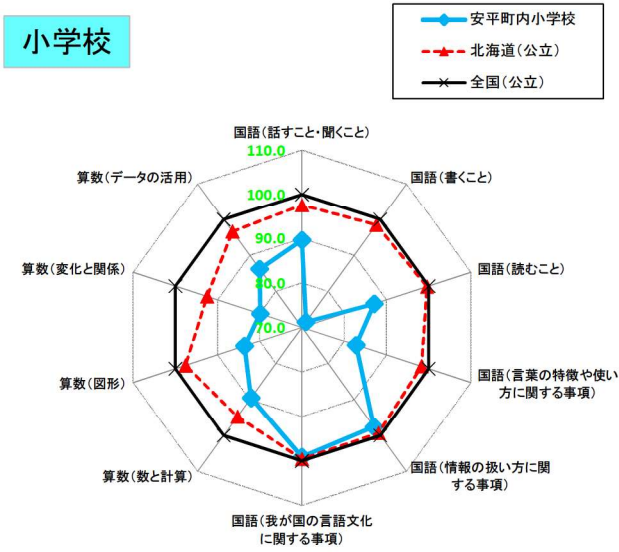
■ 安平町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:46人）（中学校数:2校、生徒数:61人）

【教科全体の状況】

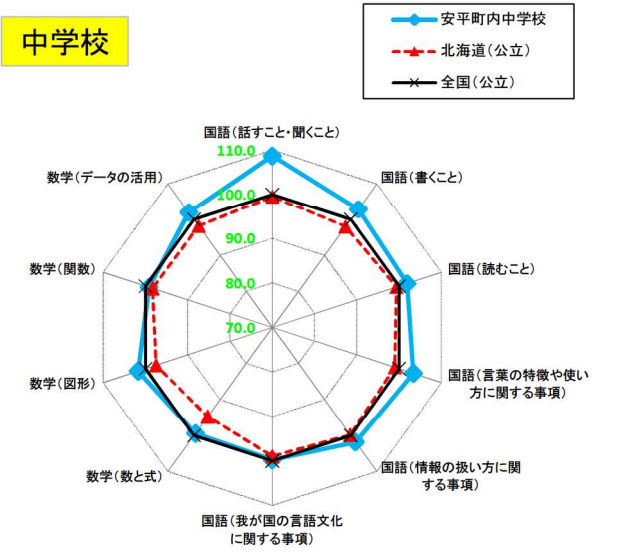
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	60
算数・数学	55	53

小学校

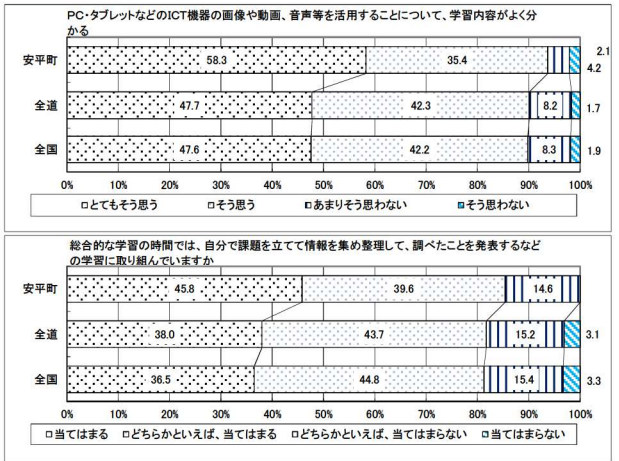


中学校

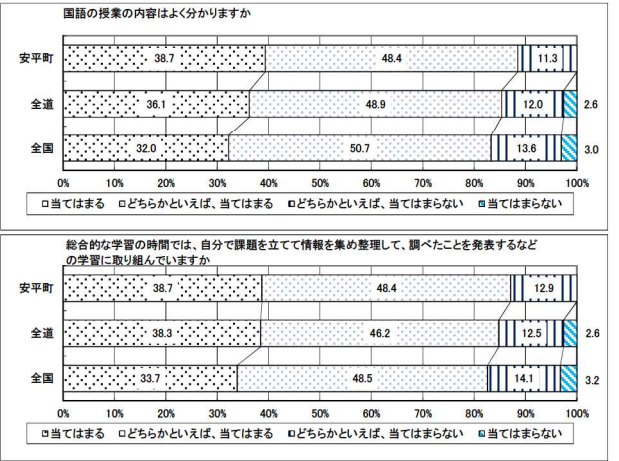


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体で、児童の学びの幅を広げ、学習内容の理解が深められる授業の実現を目指し、ICT機器やデジタル教材に係る研修機会の充実に努めたことにより、PC・タブレットなどのICT機器の画像や動画、音声等を活用することについて、学習内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、「あびら教育プラン」の教育課程への位置付けを図り、地域人材を活用した体験的な学習や児童の発達の段階に応じた探究的な学習活動の充実に努めたことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、教員の授業改善及び授業力の更なる向上を目指し、「安平町ハンドブック」を活用し、授業改善を推進したことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、「あびら教育プラン」の教育課程への位置付けを図り、地域人材を活用した体験的な学習や生徒の発達の段階に応じた探究的な学習活動の充実に努めたことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【安平町の学力向上策】

- ◎ 「安平町ハンドブック」の活用による授業改善及び教員の授業力向上に向けた取組の推進
- ◎ 9年間を見通した指導計画の作成及び乗り入れ指導等による小中一貫教育の充実
- ◎ ICT機器やデジタル教材・アプリ等の有効活用に向けた授業交流及び研修会等の実施

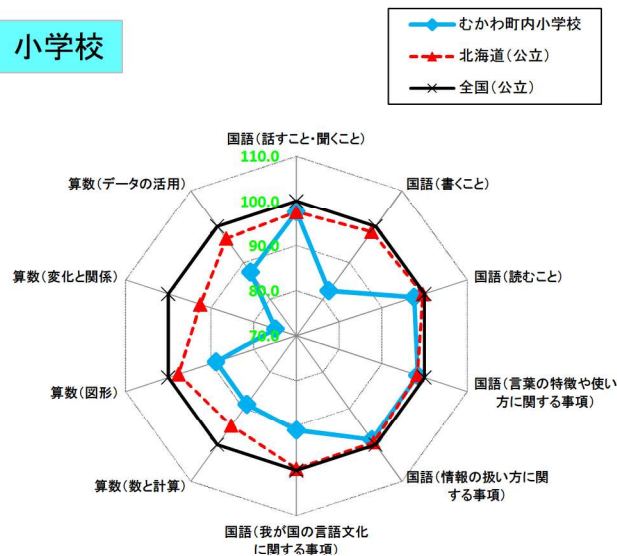
■むかわ町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:56人）（中学校数:2校、生徒数:56人）

【教科全体の状況】

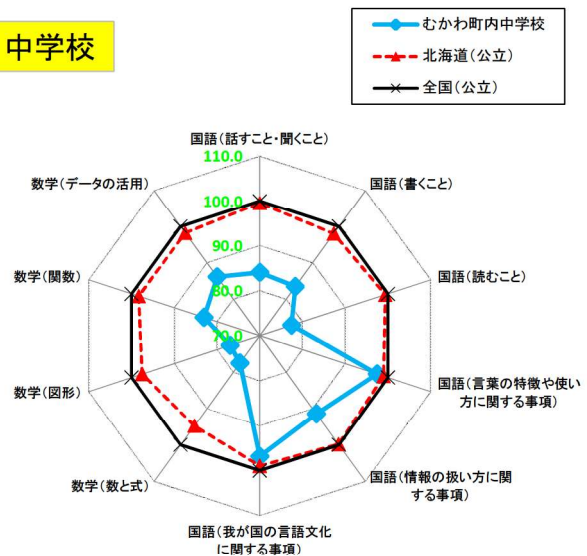
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	51
算数・数学	55	43

小学校

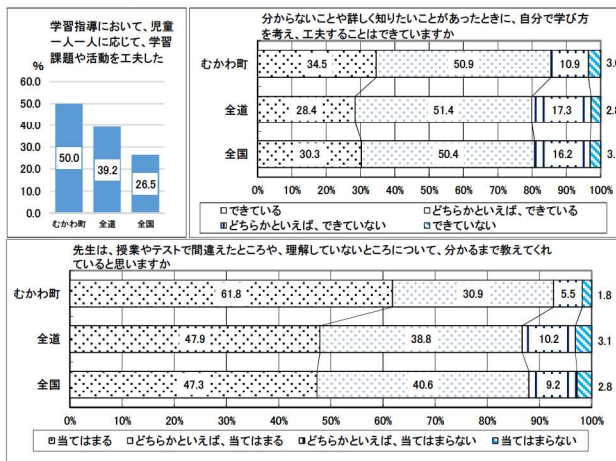


中学校

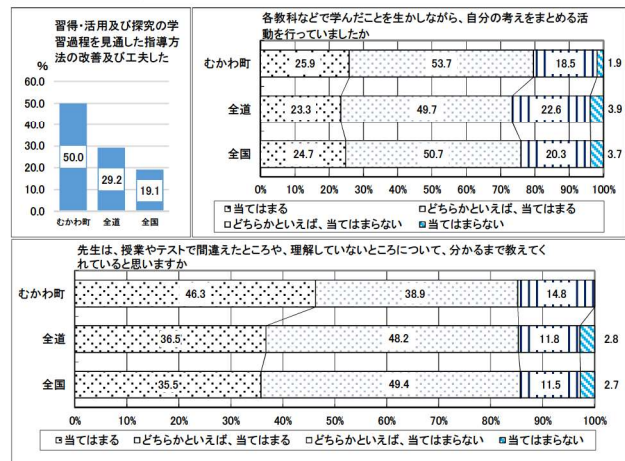


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、チーム・ティーチングや専科指導など、きめ細かな指導を行うための体制整備をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町全体で、習熟度別少人数指導など生徒一人一人の能力に合った指導を行うための体制整備をしたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【むかわ町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末の積極的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した望ましい生活・学習習慣の定着に向けた取組の推進
- ◎ むかわ町の地域資源や魅力に着目した探究型ふるさと学習「むかわ学」の推進

【Webページ】



（R6.11掲載予定）